

特別公開授業「ナイン」の学習を終えて

みんなに心からお礼が言いたい

3年B組 圓藤 志乃

1991年（平成3年）10月31日木曜日、今日のこの日は忘れることができないだろう。「こんな授業、二度とできないかもしれない」と思っていた板野郡同和教育研究大会の授業さえ影が薄くなってしまいう程の授業だった。昨日のこのノートには「緊張もプレッシャーもない」と書いたけれど、さすがに体育館に入った時は少しビビって、それでも隣の岡本君としゃべったり、緊張のせいか顔がこわばっていた廣瀬君をひやかしたりしていたら、いつもみたいな気分になってきて安心した。おまけに授業が始まった時にはやる気がすごい出てきて、何かわくわくしてきたくらいだった。そんな中で始まった授業、私は「今日こそ発言のスタートを切ってやる」と意気込んで挙手しようとしたら、ほとんどの子が挙手していて驚いた。いつもは発表なんてあまりしない子も挙げていて、「負けられない」という気持ちになった。でも、実のところなんか意見がありふれている感じで「こんなんで大丈夫かな」と思っていた。それがこんな授業になった。そのことが嬉しい。この授業に火をつけたのは、やっぱり同和問題学習のことを出した中山さんだと思う。3年生になってからは2週間に一度くらいのペースで公開授業があって、嫌々受けた授業も何度かあった。でも、今日は同和問題を学習したからこそ成り立ったんだと思う。やっぱり学習してきてよかった。これで私なりに道徳＝同和問題学習ということが証明できた。10分ぐらいのオーバーで授業が終わった。もっともっと時間がほしかった。最後の礼が終わった時に周りから拍手が聞こえて、一回やんでいたのに退場の時また拍手してくれた。その拍手は私たちが体育館を出るまで続いた。とてもすっきりした清々しい気分になって、ついつい顔がほころんでしまった。「ナイン」について言いたいことは全部言ったと感じだった。板野郡同和教育研究大会の授業の終わったときの女子の何人かは涙を流していた。今日の授業には涙はなかった。みんなにこにこしていた。井上さんが言っていたように本当に輝いていた。今日の私たちは準優勝どころか、優勝、ついでに全員にMVPでも送りたい。それも互いの絆を確かめながらの優勝、要するに最高の試合ができたということが胸いっぱいだ。この授業を3年B組のメンバーで受けられたことをとても嬉しく思うし誇りに思う。みんなに心からお礼が言いたい。徳島県中学校同和教育研究大会は「3年B組の授業」を期待してたくさんの方がくるだろうけど、今日のような授業がしたい。そして、一生3年B組の絆を大切にしていきたい。先生もお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

最高の思い出となり、宝物となるような授業

3年B組 井上 由加

富田中学校での全国大会はとてもすごいものになったと思います。富田中学校に行くまではあまり緊張せず楽しく行けたし、富田中学校についてからもあまり緊張しなかったので、自分自身でも私はなかなか度胸があるなと思っていましたが、体育館に入ってから授業開始まであと5分ぐらいになったところから胸がドキドキし始めました。「どうしよう、どうしよう」と思ったけど、私がここで頑張らなければ応援してくれた板野のみんなに悪いと思って、自分自身に「頑張れ」と言い聞かせました。

授業が始まり最初に先生がみんなに問いかけた瞬間、「あっ！これはいける」と思いました。たくさ

んの子が手を挙げていたからです。そんな状態がずっと続きました。今まで発表したことのない子までが手を挙げていました。自分の気持ちがどんどん高ぶってくるのがわかりました。中山さんが部落問題のことを出したとき、「ここで中山さんを支えな」と思って手を挙げました。頭の中が真っ白になり周りの先生方の視線がすごく痛く感じました。ただここで訴えなければ板野のみんなを裏切ることになる。みんなの分も私が訴えなければと思いました。すると自然に言葉が出てきて、何度も何度も手を挙げるエネルギーが沸き起こってきました。どんどん時間が過ぎていくのが悔しくてたまりませんでした。周りは静かで時間は止まったみたいなのに、時計は動いていく、時間が止まってくればと思いました。

時間がきて先生が授業を終えようとしたとき、手を挙げているのに発表できなかった子がもったいなくて、思わず先生に時間を伸ばすように頼んでしまいました。みんなに峠を越えてほしかった。だけどみんなが発言するということは無理だったけど、授業が終わったときの先生方の拍手が私たちが峠を越えたことの証だったような気がします。また退場するときにもらった拍手もとても心に残っています。私にとって最高の思い出となり、宝物となるような授業でした。

板野町に思いを込めて、この絆を大切に持ち続けていきたい

3年B組 井上 浩司

全国大会（富田中学校）に行く前に他のクラスの数人に頑張れということを言われました。その言葉がとても嬉しかったです。自分で言うのも何だけど、その期待通りに僕は発表できたと思います。

富田中学校に着いた時はものすごいプレッシャーを感じたけど、今までの取り組んだ公開授業や全体授業のことを思うと、授業中はほとんど緊張しませんでした。授業が終わったとき、多くの先生から拍手をもらいました。あの拍手は決して忘れることはないと思います。胸の中がすっとして、晴れ晴れとした気持ちになりました。

授業内容もすばらしかったと思います。みんなが頑張ったことが嬉しくてなりません。でも、発表できなかった友だちのことを思うと残念です。時間に制限があることがとてもくやしき感じられました。

正太郎を中心に英夫に陰を作り合うことが3年B組にもできそうに思うし、できているのかもしれないと思います。中村さんが願ったように僕もこの板野町に思いを込めて、3年B組のナインが高校に行こうがどこに行っても、この絆を大切に持ち続けていきたいと思います。



二度ともらえないような大拍手、いつまでも忘れることはない

3年B組 漆原 健二

今日の授業はいつもの公開授業より気楽にできました。特に体育館が広がったので大きな気持ちで授業ができました。堂々と手を挙げあの大勢の中で発表した時の壮快さ、一生忘れない思い出になると思

います。またこの3年B組の仲間とこんな大きな舞台を経験できたことが本当に嬉しいです。それにいつもあまり発表しない子も、最初からどんどん発言していったのには驚きました。みんな友だちのために頑張ろうとしていることがすごく感じられ、僕も負けないぞという思いで精一杯の気持ちをぶつけることができたと思います。

本当にみんなよく頑張り、3年B組の絆のすばらしさを全国の先生方に訴えることができた最高の授業だったと思います。終わった時の拍手、僕たちが退場する時にくれた拍手、本当に嬉しかったです。あの拍手は僕たちのこれからの人生の大きな支えとなっていくと思います。あの拍手によって僕たちは頑張れたんだという思いと、最高の授業ができたんだという自覚を持つことができました。もう二度ともらえないような大拍手、いつまでも忘れることはないと思います。

僕たちがしてきたことに誇りと自信があった

3年B組 久保耕一郎

全国大会（富田中学校）での授業、今まで以上にいい授業ができたと思います。言いたいことがいっぱいあったけど、最後の方は周りの先生に訴える感じでパンパン意見が出て最高の授業だったと思います。始まってすぐは緊張もしたけど発表してからは楽になりました。知らない人がほとんどだと言ってもあの大勢の中では緊張するものです。そんな緊張間のある中でも訴えていくことができたのは、周りの仲間の励ましがあったのと、今まで僕たちがしてきたことに誇りと自信があったからだと思います。みんなもきっとそんな思いで頑張ったと思います。この3年B組は本当に強いと思います。ナインと照らし合わせて、僕はこの3年B組にはできないことはないんだと思いました。

みんな大きなものを手に入れた

3年B組 新野 恭啓

全国大会の授業本当にすごかった。たくさんの人が発表できたし、みんなとても集中していたと思います。僕は授業中とてもリラックスしていました。手を挙げるのもずっと挙がりました。そして発表もできました。とても楽しいような感じでした。みんなの発表を聞いていると嬉しくなってきました。みんな一つになって頑張っているんだなあと思いました。一つ残念なことは時間がなくなってきて手を挙げたのに発表できなかった人がいたことです。せっかく勇気を振り絞って手を挙げたのに、発表しただろうにと思いました。でもみんな本当によくやったと思います。僕は授業中何度も、今までみんなと頑張ってきてよかったなあという気持ちになり、僕たちにはできないことはないという自信が湧き起こってきました。全国大会の授業で、みんな大きな大きなものを手に入れたと思います。

全国大会の日を思い出して頑張りたい

3年B組 仲田 宏二

全国大会の前日は緊張しなかったけど、当日はものすごく緊張しました。昼ごはんは少し足りないような気がしたけど、すごく緊張して胸がいっぱいでした。授業の時間がきて体育館に入るとき、周りを見るとたくさんの人がいたのでびっくりしました。たくさん先生方が授業を見ると聞いていたけど、まさかこれほどたくさん人が集まっているとは思っていませんでした。

僕は一回しか手を挙げるができませんでした。指名されて発表した時も自分で何を言っているの

かはっきりとはわかりませんでした。発表した後もしばらく心臓がどきどきしました。始めは資料「ナイン」中心に話し合いが進んでいたけど、だんだん変わっていき同和問題の話になっていきました。みんなが一生懸命に自分自身のことと重ねて資料を考えたから、同和問題にまで発展したんだと思います。みんな中学生とは思えないほどすごかったです。僕も何か言わなければと思ったけど、みんなの意見を聞いていたら胸がいっぱいになってきました。

僕はこの全国大会の授業をみんなと経験できたことを一生の思い出にしたいです。もし大人になってくじけそうになったら、全国大会の日、富田中学校体育館での授業を思い出して頑張りたいです。

授業が終わったときのみんなの笑顔を忘れない

3年B組 姫田 亮

まだ授業の興奮は続いている。全国大会の授業のことが脳裏に焼き付いている。僕たちが本格的に同和問題の学習に取り組みだしたのは、2年の1学期途中だった。もう1年と6か月ぐらいが過ぎている。当時を思い出せばなかなか発表できず、うわだだけの言葉ばかりだった。しかし、学習を続けていく中で何かが変わっていった。しだいに自分の意思で発表する人が増え、森口先生を中心として大きな輪となって3年生を迎えた。本当に3年生の仲間はすごいと思いだした。

この学習に全く無関心だった僕も次第にこの学習を自分自身の問題として考えていくようになった。

僕は今まで頑張ってきた自分に自信を持って全国大会の日を迎えた。授業の始まる前、僕は二つのことを思っていた。一つは「僕たちの学習は決してうわだだけのことを言っていない。みんなの本当の思いをぶつけあった学習を積み上げてきたんだ。」ということだった。もう一つは「この僕たちの学習を真剣に共に同和問題を解決していくんだという、はっきりした人間としての願いをもって見てほしい。」ということだった。12時50分、僕たちの授業は始まった。みんなの発言に胸がいっぱいになった。本当にすごい仲間と授業ができたことが嬉しくてしかたがなかった。授業が終わったとき、みんなの顔には笑みがこぼれた。僕はあのさわやかな笑顔を忘れない。

みんなへの感謝の気持ちで授業を終えることができた

3年B組 村山 匡輝

全国大会の授業を終えて、まだまだ熱いものがこみ上げてくる。やっぱり今まで以上の授業ができたと思う。授業が終わった時こんなすばらしい仲間が僕にはいるんだという気持ちでいっぱいになり、みんなに対する感謝の気持ちでいっぱいだった。全国大会の授業はまさしく周りのみんなに支えられた授業だった。

今までの公開授業で緊張したりして発表できなかった人も、全国大会の授業では発表してくれた。その姿を見て僕は勇気づけられて、もっと発表しようという気になって授業を頑張ることができた。

富田中学校へ行く前に他のクラスの友だちや先生方から、「頑張って授業、成功させてこいよ」と励まし言葉をいっぱいもらった。学年全体で同和問題の学習に取り組んできたことによって、他のクラスの友だちの思いを全国の先生方の前で語ってくるんだという気持ちになった。それと同時に責任感からくる緊張感とプレッシャーで苦しくもなった。授業中幾度となく、励ましの言葉をくれた友だちの顔が浮かんできた。

授業は成功だったと思う。2年生から積み上げてきた全体学習によって僕たちは本当にたくましくも

なり、思いも深くなってきたんだと思った。3年B組全体にとっても、生涯忘れることのない思い出の授業となったと思う。そして何より僕を支えてくれた3Bのみんなや、励ましの言葉をいっぱいくれた他のクラスの友だちへの感謝の気持ちで、授業を終えることができたのが一番うれしかった。

本当のみんなが見えてきた

3年B組 稲井 美音

全国大会は私にとってすごく大きなものだったし、みんなにとっても大きかったと思います。この全国大会で一番心に残ったのは、みんなが一生懸命にこの授業に取り組んだことです。授業が始まるとすぐにたくさんの手が次々と挙がっていました。それを見て何だかみんなが自分を励ましているような気がしました。そんなみんなの励ましによって私も手を挙げることができました。

みんなの意見で一番多かったし、私もそう思ったところは「このナインと3年B組は同じだ」という意見のところでした。今まで同和問題学習に取り組んできて、本当のみんなが見えてきたような気がするし、お互いが信頼し合えるようになったと思います。たぶんみんなもそう思っているとおもうけど、やっぱり人間というのは支え合って生きていくものだと思います。人間が一人では生きていけないのは、誰かの支えがないからです。全国大会の授業を通してそう思いました。一人が発表したら、みんな次々その子の意見に対して応えていくからです。やっぱりB組はいいなあと思いました。私は一回しか発表できなかったけど、これからもどんどんこの学習をしていきたくし、頑張っていきたいです。

私は昔の正太郎のように生きていきたい

3年B組 太田 美紀

全国大会の授業、自分の本当の思いがはっきりと言えてすごい授業になったと思います。私も自分自身が変われたと思います。いつまでも弱気でうじうじしているだけでは、誰も支えることができないし、自分自身人間らしく生きていくことはできないと思います。私はこの授業が終わった時から、私は昔の正太郎のように生きていきたいと思いました。友だちに陰をつくったり陰をつくられたりして、本当の意味で支え合えるような友だちと、ナインのような団結をつくりたいです。

全国大会の授業は、本当に私自身を変えてくれたし、クラス全員一人一人の思いが聞けてとても貴重な一日だったと思います。

10月31日という日が忘れられない日になった

3年B組 加藤 千種

授業があっという間に過ぎたという気がします。私はたった一回の発表だったけど、発表した後はものすごく気持ちがよかったです。もう2～3回発表したかったと思いました。最初の発問からみんなボンボン手を挙げていてさすがB組だなと思いました。

一生に一回の貴重な体験をしたことが本当に嬉しいです。あの授業がどれだけ周りの人に印象を与えたかはわからないけど、きっととてもいい印象を与えただろうと思います。

授業でほとんどの人が発表しました。あの授業で発表しないことには、先へは進まないということがわかったような気がします。富田中学校に行く前、友だちから「頑張りよ」と声をかけられ頑張ろうという気になり、さあこれから始まるという心構えというものができ、自分自身も頑張りました。友だち

を裏切るようなことはしないと生活ノートに決心したことができて、本当によかったと思いました。3年B組の絆がより一層深まったような気がします。心が一つになれた授業だったと思います。3年B組になれたことが本当によかったと思ったし、10月31日という日が忘れられない日になりました。中学時代のよい思い出になりました。

いくつになってもこの授業のように自信をもって生きたい

3年B組 土内 恵子

この授業によって力がついた人もたくさんいたと思う。あの日に起こったすべてが美しく思う。輝く瞳は堂々と前向きの姿勢を忘れなかった。たった一言でも自主的に手を挙げて発言したら、力はそれでつく。授業を終えて思ったことは3Bは無敵だということだった。やればできるんだ。みんなすごい力を持っている。あの感動の日を忘れないだろう。いくつになってもこの授業のように自信をもって生きたい。

井上さんと手をつなぎながら歩いた

3年B組 中山 幸子

全国大会の授業はものすごく感動した。自分で言うのはおかしいけれど、3年B組はすごい。改めて3年B組の一人でよかったと思う。私は始め緊張してとても不安だった。でも一回発表したらすごく楽になれた。同和問題についての発言はどうしようか迷った。でも、今の私たちがあるのは同和問題の学習があったから、今の私たちの関係ができ、こんなに発言ができるようになったこのことを思うと、同和問題学習のことを語ることなしに私たちの心を込めた本当の授業にはならないんだという思いがあった。ただどここのことを発表してみんなが応えてくれなかったらどうしようとも思った。思い切って発表してみると、みんなが私の思いに応え支えてくれた。ものすごくうれしかった。

授業が終わったとき拍手をくれた。びっくりした。その拍手が終わって退場したときまた拍手をくれた。井上さんと手をつなぎながら歩いた。ものすごくうれしくて涙が出そうになった。